

東日本大震災 石川民医連支援ニュース

No.40 2011年5月24日

石川民医連事務局 TEL 076-253-1458

第9・10次支援隊報告会開かれる



24日午後1時半より城北病院リハ室で、第9次・第10次の支援に参加した7名が参加し、報告会が行われました。原先生から第9次隊の活動の全体的な報告が行われ、越野さん、堂端さん、杉本看護師から感想などが報告されました。原先生からは避難所にいる人は減少し避難所も縮小しているけれど、認知症の妻を拘束し避難所に身を寄せる老夫婦など、より困難をかかえた人が取り残されている状況が報告されました。また坂総合のトリアージ等の救急体制等、日常の活動が活かされたことや、これまでの支援に対し、坂総合病院のスタッフから大いに感謝されたと話しました。

杉本さんは石巻の被災地でこれまでの人生で嗅いだ事のないような匂いの中、作業されているが10年もかかるのではと思われる風景だったと報告しました。がれきの中で日常生活が戻ってきていて通学する学生が通っている状況に驚いたが、被災者には当たり前の風景になっていると越野さんは語りました。10次隊は金土作戦に参加しました。これは法律や医療などの「なんでも相談会」といっしょに炊き出しと支援物品の配布を行うもので金曜日に宣伝、土曜日に仙台市若林区で開催されました。自宅で退避されている方が次々に訪れ支援物品はあっという間になくなったそうです。また七ヶ浜や石巻の被災状況も見学、夜は地元のお店に貢献

し話を聞いたりしました。参加した中さんは地震被害の大きいところの方も「もっと大変な人達がいるから我慢しなくてはいけない」と笑顔で話される人がいてこういう人達にも支援できたらと話しました。友の会副会長の森尾市会議員は金沢の防災体制作りにも活かしていきたいと語りました。

最後に武田県連事務局長が、これまでの支援の経過と今後の取り組みについて報告しました。県連からの人的支援は5月末でいったん終了し、今後は義援金に引き続き取り組む他は、ボランティアは民主団体や災対連の活動に自主的に参加していくこととなります。

緊急学習会に60名参加

19日午後7時より城北クリニックにて光陽生協病院の平野先生を招いて「福島原発と健康影響」の学習会を開催しました。平野先生は1985年から8年間、世界最大の原発立地地域の敦賀で診療所に勤務し、被爆問題について取り組まれ、全日本民医連の被爆問題の顧問をしています。連休には福島で相談会に参加した事は5/23号の民医連新聞に報道されています。原発による放射線による汚染の状況と健康被害について説明されました。

